

## 令和4年度第1回座間市生涯学習プラン策定委員会会議録

会議の名称	令和4年度第1回座間市生涯学習プラン策定委員会		
開催日時	令和4年8月16日（火） 10時00分～11時30分		
開催場所	市役所 5-2会議室		
出席者	大串委員、佐々木委員、田中委員、和田委員、安藤教育部長（委員長） 飯田図書館長、吉野生涯学習課長		
事務局	淀川副主幹兼生涯学習係長、河野生涯学習係主事		
会議の公開可否	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開	傍聴者数	0人
非公開又は一部公開とした理由	—		
議題	1. 副委員長の選出について 2. 座間市生涯学習プラン内容説明について 3. 意見交換 4. その他		
資料の名称	資料1. 生涯学習プラン策定委員会委員名簿 資料2. 座間市生涯学習プラン策定委員会の設置及び運営に関する要綱 資料3. 座間市生涯学習プラン（令和3～4年度） 資料4. 生涯学習プランの検証 資料5. 生涯学習プラン構成素案（骨子案） 資料6. 生涯学習関連法律（抜粋） 資料7. 新座間市生涯学習プラン策定までの流れ		
会議の結果			
1. 副委員長：大串 隆吉			
議事の詳細			
<b>1. 副委員長の選出について</b> 生涯学習係長：資料2について説明。委員長は要綱の規定により教育部長となる。副委員長は委員長を補佐し、委員長が欠けたときに職務を代理する。副委員長に立候補される方はいるか。前回のプラン策定の際にも、大串委員に担っていただいた経緯がある。古くからの知識等もあることから、大串			

委員にお願いしたいがよろしいか。

大 串 委 員：引き受ける。

## 2. 座間市生涯学習プラン内容説明について

生涯学習係長：今回のプラン策定は、現行の生涯学習プランの計画期間が今年度末に終了することに伴い行うものであり、本市における生涯学習活動支援のための総合的な施策推進の基本的な方向を明らかにすることを目的としている。新プランは、市の最上位計画である第五次座間市総合計画と、第三期座間市教育大綱及び、庁内各部署で行う生涯学習推進に関連する方針や計画との連携を図った、教育部門の個別計画となる。計画期間は第五次座間市総合計画に合わせ、令和5年度から12年度末までの8年間となる予定。長期に渡る方向性を決めることから、個々の事業や取組の詳細を決定するものではなく、市としての生涯学習の方向性を示していくものとなる。新プランの策定方法は、基本的には現行のプランを基として、修正や追記をしながら進めていきたいと考えている。このことを踏まえながら、今後意見を頂戴したい。

策定にあたってのこれまでの経過と、今後のスケジュールは資料7のとおり、過去の検証の結果は資料4のとおり、新プランの骨組みは資料5のとおりである。

委 員 長：補足説明。資料3が現行のプランであり、これを作り直すことになる。基本体系の座間市市政運営指針というものは、本市の現時点での最上位計画であり、現在第五次座間市総合計画を策定中。その下に教育大綱があるが、これは、市長が定めるものとなっており、現在第三期教育大綱を策定中。策定委員会には教育委員が出席しており、市長と意見交換をしながら策定をすすめている。その下に来るものが、本プランとなる。基本的には、資料5の骨子案を元に検討していくことになるだろう。不明な点や意見のある委員はいるか。

佐々木委員：第五次座間市総合計画は現在策定中ということだが、座間市市政運営指針と同じものだと考えて良いか。

委 員 長：そのとおり。

和 田 委 員：第五次座間市総合計画と第三期教育大綱と本プランの完成時期はほぼ同時期という認識で良いか。

生涯学習係長：そのとおり。上位計画の策定状況を見ながら、本プランも策定していくことになる。

委員長：第五次座間市総合計画と、第三期教育大綱の策定に携わっているが、今までと流れが大きく変わることは無いと思う。この10年間くらいで大きく変わったことを挙げるなら、まず、市長が変わったこと、学校教育の観点からは、地域の方々が学校に入ってくるようになったこと、バリアフリーがなかなか進んでいない所もあるが、障がいの有無にかかわらず一緒に学ぶこととするインクルーシブ教育も進んでいる。そういった観点も踏まえた上で、本プランの策定にあたっていただければと思う。

佐々木委員：市民に対するアンケートについて、個人的な意見だが、生涯学習から距離を置いている社会人など若い世代の市民の視点も大事だと思っている。

委員長：市長の政策の中に、市民や企業が自治体と一緒に行政を推し進めていくことを意味する、共創（きょうそう）という言葉掲げている。前市長は協働を掲げていたが、それをさらに発展させて、共創のまちづくりをしていくと常々申し上げている。行政がなかなか行き届かない所について、たとえば、あすなろ大学などで研究を深めた所を、今度は講師の立場で、他の市民の方に繋げていくということも、今後は必要になっていくだろうと思う。

田中委員：アンケートの対象は誰だったのか。

生涯学習課長：今回のアンケートは主にLINEで行ったが、この他にも紙媒体での意見聴取を行いたかったため、公共施設にアンケート用紙を設置し、個人、団体それぞれを対象に回答をいただいた。

副委員長：資料3に社会教育法などが掲載されているが、これだけでは足りないのではないか。

生涯学習係長：生涯学習関連の法律については資料6に掲載している。プラン上は、基本的な法律だけを掲載していると思われる。

委員長：新プランへの法律の掲載は、事務局で整理していきたいと考える。

### (3) 意見交換

佐々木委員：以前、生涯学習フェスティバル事業で、各公民館にてサークル活動を市民に周知し、自由に見学、体験してもらおう、ということを行っていた。市民の意見を聞く手段として、LINEの活用も良いが、このような自由参加・見学という方法も、生涯学習の推進となるので、今後も行った方が良いと思う。

生涯学習係長：参加団体の減少もあったようで、現在は、フェスティバル形態はとって

おらず、講座が中心となっている。ここ数年はコロナ禍ということもあり、フェスティバル期間内でも、公民館や文化センターでのサークル活動の体験はできない状況である。

和田委員：LINEの活用について、いつでも・どこでも・だれでも学べる状況を作るには、社会とのコミュニケーションツールを自分のものにするというスキルを身に着けることも、現代に対応した生涯学習として必要なことだと思う。

副委員長：退職後は、会社等にあるような機械やシステムを使うことがなくなるので、そのようなものの貧困状態となっており、孤独感を感じる。

佐々木委員：結局は仲間づくりが重要だ。一人でやろうと思ってもなかなかできない。生涯学習といっても最終的には仲間づくりにつながる。あすなろ大学でもパソコン教室があるが、パソコン教室をやるならZOOMを使えないといけない、ということから、皆でやり方を覚えて、今ではほぼ隔週ごとにZOOMを使っている。コロナ禍になってから、孤立してしまう人が増え、仲間との対話の場が少なくなり生涯学習の機会が減少してしまっていることが現状といえるのではないか。

副委員長：コロナ禍になってから、外出や遠出をするにも、一旦考えるようになってしまった。昔からの人との繋がりが無くなってきて、疎遠になってしまっている。

田中委員：今、小学校では、地域とのつながりを持つという意味で、多くの地域の方が学校に介入している。小学生でも、「私は座間市民だから」と発言する子も多い。生涯学習は一生継続ものだから、小学生のうちから意識することによって、さらに生涯学習が定着するのではないかと思う。

委員長：近年、多くの地域の方に学校に関わってもらっている。小学生だった子が大人になり、またつないでいく、というのが理想である。

図書館長：小学生というと学校の勉強が全てだと考えてしまうが、学校以外でも学べる場所がある、ということを知ってもらうことも重要だ。

委員長：本市では、生まれた時から本がある生活を目的に、新生児に絵本を配布するブックスタート事業を行っている。学校教育に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響で、学校のICT化が著しく進んだことから、小学生は一人一台のタブレット端末を持ち、調べ学習などを非常にスムーズに行っている。また、図書館に行くことなく本を借りることができる、電子図書館もある。このようなことから、本が身近にある環境が整えられている。

図書館長：電子図書館は安定した利用がある。主に、40代～50代の方の利用が多い。コロナ禍で図書館の開館時間を短縮していたときも、自宅にいても本を借りることができる、と周知することができた。

副委員長：図書館は、本を読めて勉強もできる環境。電子図書館となると、人があまり来なくなるが、それは図書館ではないように個人的には感じてしまう。図書館の本を図書館で読むのではなく、自宅で読む、という風潮に変わっていくのだろうか。

図書館長：電子図書館のメリットは、外出しなくても図書館の本が読めること。例えば、入院中の方がベッドの上からアクセスすることができ、本を読むことができる。いろいろな状況の方に図書館を活用してもらえる状況になっている。

委員長：電子図書館を活用している利用者は、主に40代～50代が多いということだが、その年代の多くは日中に仕事をしており、実際に図書館に来ることが難しい方である。電子図書館をきっかけに、退職したら実際に図書館に来るようになってもらえれば。

佐々木委員：シニア世代は、仲間づくりがコロナの影響で難しくなっている。図書館も、仲間との対話の場の一つとして活用できたら良いと思う。例えば、シニア世代向けに、自由に使える部屋を用意するなどしたら、需要があると思う。

#### (4) その他

生涯学習係長：議事録は事務局が作成し、市ホームページに掲載する。委員の名前と発言された内容は掲載されるため、承知いただきたい。

【次回会議：9月21日（水）13時30分～ 市庁舎 5-2会議室】